

な か ま

発行
佐倉市立中央公民館
編集
なかま編集委員会
〒285-0025
佐倉市鎗木町 198-3
電話 (043) 485-1801

往なす堤防----- 宮崎 英一 「茨城県水戸・笠間の旅行記」 --- 仁シヤルN・M
子供の笑顔----- 大三川 高治 佐倉市民カレッジ卒業----- 薄井 隆

「佐倉むらさきの会」で学ぶ

稲田 圭佑

自分は源氏物語とは縁のない人間だと思ってきました。それがカレッジ16期生の方々が立ち上げた「佐倉むらさきの会」に入会して講義を聴き始めたのです。

09年8月25日に第一回がスタートし、毎月一回の正味2時間の講義ですが6月でもう35回になり、間もなく4年目に入ります。講師の松田先生のお話だと「須磨帰り」という言葉があるそうです。「須磨の巻」あたりで源氏物語を諦める人が多いようですが、もう「須磨」も「明石」も過ぎました。我ながらよくもまあ続いたものだと感心します。読み終えるには後何年かかるやら、大変気の長い話です。会員には既にカレッジを卒業された方も居られ、加えて新会員も有り年齢幅の広いメンバー構成です。

講義は始めにみんなで声を出して読み、その後先生が解説してくださいますが、これがこの上もなく面白いのです。笑いも有り、眠気を吹き飛ばすテンポで進みます。自分もこの会にお誘い頂いた16期生の先輩に感謝しつつ、極力休まないで参加しています。

会の立ち上げ時、想定以上の人気で、会員が教室収容能力を上回りそうと心配され、自分はクラスであまり積極的に勧誘しませんでした。このことに責任を感じていました。その後新しくクラスの仲間、その顔も増えほつとしてます。

さて光源氏ですが桐壺帝の第二皇子に生まれたのですが、帝は皇子が8歳の頃高麗の観相人の観立てを聞き臣籍降下させ、源姓を贈りました。それから世人が光る君と賛美する光源氏の活躍で

す。

帝の寵愛を一身に受けて育ち、12歳で元服、16歳の葵の上と結婚します。婿入り婚の上の葵の上のうちとけない態度に馴染めず苦しみます。3歳で母を、6歳で祖母も失い、甘える事の出来る親族の女性の愛を知らない事が、マザコン色を強く育てた様に思えます。

父帝の女御（藤壺の女御）に心を奪われ愛を貫くのは母への慕情そのものだという気がします。また幼い紫の上を誘拐同然の方法で自邸に引き取り、自分の理想の女性に育てるべく努力するのはマザコンの裏返しではないでしょうか。

千年以上も前から読み継がれている面白さに納得し、この後も会に参加、読み続ける事になりそうです。

(編集委員)

往なす堤防

『なかま』2月号の「被災地に極力足を踏み入れ復興を担いつつ国家・国民のあり様を考える」という記事を読んで、東北ボランティアに応募した。つぶさに現地の惨状を見て女房と二人嘸然として立ち竦んだ。この苦難に屈しない東北人の生き様に、世界が目を見張り、日本人の絆の強さに敬意と脅威を感じたと思う。

現在、東北で最も必要なものは資金援助とガレキ処理だ。死者・行方不明が8万5千人の四川省大地震の際、中国人は国の指示により「ペアリング支援」で各地域が分担して、協力し合って3年間で片付けた。

それに比べて、日本人は国の懇願にも従わず、不平不満ばかり。このガレキ処理だけでも何時になることやら。

釜石で手伝った際、深さが

63歳のギネスブックに載った防波堤について市役所に話を聞いた。昭和53年に港湾計画改定がなされ、平成21年竣工の湾口防波堤。壊れたが効果はあったと聞いた。

今後このような堤防の復旧は、日本人の性格を考えると、津波を真正面から受けて立つ直立の壁に莫大な費用を掛けて行うのであろう。

ここで今年初場所の千秋楽に横綱白鵬が津波のような把瑠都を真正面から受け止めないで、イナシテ全勝を阻んだことを思い出す。堤防も三、四角錐型にして波高を切る即ち往なすものに出来ないか。又、堤防を支える土砂がえぐられてるのでその補充にダムで堰き止められている土砂を海に流すようにしたら。

など思いをはせながら、東北の人々に早く幸せが来るように祈るのみ。

(王子台 宮崎 英一)

茨城県水戸

・笠間の旅行記

私は泊りがけの一人旅を初めて行いました。一日目は上野から水戸へ、二日目は水戸から笠間に行き、帰りは上野までスペシャル特急に乗りました。その旅行記を綴ります。

一日目、水戸は雨でちよつと残念だったけど、三大名園の一つ、偕楽園に行く念願がかないました。また、徳川博物館や水戸に移された洋風建築の旧水海道小学校などたくさん回ることができました。水戸の街も一通り満喫できました。その中で一番良かったのは、一年前に終了していたはずの映画「桜田門外の変」のロケセットが地震の影響で残され、延長して開催されていたことです。

千波湖では貴重な黒鳥を見ることができました。黒ゴマの「白鳥型シュークリーム」や水戸名物「納豆カレー」も

食べられました。

二日目、笠間に出かけました。三大稻荷神社のひとつの笠間稻荷に行き、ツツジを見て、最後に「陶炎祭」に行きました。日本ベスト3と名のつく名所に行けて良かったです。ツツジ祭りでは、観音様やきれいな山の高台からの景色が見られ最高でした。「陶炎祭」は名前から火を使う祭りだと思っただけですが、陶器祭だと知り驚きました。陶器の材料は粘土です。私達が工作で使った粘土は土からは作っていないと知りました。

今まで経験不足だったため一人旅に出る勇気がなかったのですが、今回の旅を経験して地図を見たりするのも慣れて自信ができました。本当にいい体験になりました。今度はおもつと遠くのツアーにトラ

(イニシャルN・M)

子供の笑顔

趣味の一つの世界の山旅、
辺境の旅で、昨年念願のネパ
ール・ヒマラヤの旅が実現で
きた。8千級級峰が14座あ
るアンナプルナ・ダウラギリ
を中心に、最終は世界最高峰
のエベレストを空から眺める
日程である。

トレッキングのスタートは
ナヤブルで標高1200級、
シェルパ達と最初の目的地ガ
ンドルンへ。毎日毎日ロッジ
からロッジへ、4時間から長
い日は8時間シャクナゲの森
を歩き続ける。標高5千級地
点のプーンヒルで、朝焼けに
染まるヒマラヤの眺めを堪能。
感動の一瞬である。
トレッキングの後半は温泉
でリフレッシュ。その後くた
びれたバスに乗り込み、次の
目的地へと向かう。定員20
人位のバスは荷物が多い為、
身動きもできない。ふと見る
と、バスの乗車口に10歳位
の子供がぶら下がっている。

危ないと思っていると、何と
子供はこのバスの車掌役をし
ている。

岩、砂埃の山道を2時間程
走り続けると、急にストップ
した。前にパンクした車が立
ち往生し、全く前に進めない。
困った、どうしよう。ふと思
い、リュックの中からスケッ
チブックを取り出し、車掌役
の子供に問いかける。「似顔
絵を描かせてくれるか？」
「オツケイ」とうなずく。下
手な似顔絵だが子供にプレゼ
ントする。子供はピョンピョ
ン跳ねて大喜びし、自慢げに
他の人に見せている。その笑
顔が何とも清々しい。

世界一のエベレストと子供
の笑顔は、私にとってヒマラ
ヤの旅の一番の思い出となる
一コマとなった。

(千成 大三川 高治)



佐倉市民カレッジ卒業

この春、佐倉市民カレッジ
を卒業した。この間、折に触
れて趣味の短歌を詠んできた。
そこで、記録しているもの
の中から市民カレッジに係る短
歌を抜粋してみた。どれも今
となつては懐かしく、こうし
て整理してみると、その時々
の事柄が浮かんでくる。

ある時期、脊柱管狭窄症に
罹り^か通学は無理かなと思つた
こともある。ひどい時は、五
分くらいしか歩くことが出来
なくなつた。手術を受ける覚
悟を決めかけたのもこの頃で
あつた。ところが、医師の処
方の薬の効果か、歩けるよう
になつた。今でも、また歩け
なくなる恐れが心の底にはひ
そめいている。しかし、周囲
の協力を得て、卒業すること
が出来た。

《短歌十一首》

目も耳もいまだ頭も異常なし
市民カレッジ申込みする

三度目の市民カレッジ抽選日
麻賀多神社の石段上る

百人の仲間とともに湿原の
水路の草を抜いて汗ばむ

半世紀ぶりに学生証を受く
市民カレッジ一年生は

群がりてサクラオグルマ咲き
盛る田を一望の土手の傍えに
皇族と会食したる体験を市長
が語る市民カレッジ

大方は還暦過ぎて達者なり
市民カレッジ休む者なし

七月の野に食べられる草を
摘み天ぷら揚げるわがまち
づくり

ステージにあがり仲間と発表
す半年かけたる野草の調査
小春日の市民カレッジ昼休み
坂の上より鐘きこえくる

入学は百人卒業迎えるは八十
九人の市民カレッジ

(井野 薄井 隆)

8月の黒板

★★★佐倉学入門講座「佐倉ゆかりの文学」★★★

中央公民館では、下記のとおり佐倉ゆかりの文学に関する講座を開催いたします。
皆様の参加をお待ちしております。

第1回	平成24年9月2日(日)	講師 高比良 直美先生 内容 佐倉ゆかりの文学者・吉川英治と 今東光
第2回	平成24年9月9日(日)	講師 高比良 直美先生 内容 正岡子規の佐倉訪問

会場 中央公民館 学習室3

開催時間 午前10:00~正午

定員 各講座90名

参加費 無 料

申し込み 8月1日から 中央公民館へ電話でお願いします。(先着順)

電話番号 043-485-1801

たぐら道

かけがえのない父母、各人にとっては二人に過ぎない両親の数が、十代遡ると千二十四人。二十代だと百四万八千五百七十六人、三十代では何と十億七千三百七十四万八千二百二十四人にもなる。最古の家系天皇家は現在百二十五代。してみると、日本人はもとより、人類すべてが親類縁者のように思えてくる。

しかし、そうした中でも、

私ごとき凡人が多い一方、少なからず賢者が存在する。

偉大な賢者の一人、幕末の儒者佐藤一斎。著書『言志四録』に「少くして学べば壯にして為すことあり。壯にして学べば老いて衰えず。老にして学べば死して朽ちず」の「三学戒」として知られる一節がある。学ぶに遅きはないとの教えだが、老境の城に達し、学ぶ志の募る昨今である。

(篠塚 勝夫)

あとがき

最近、ネクタイを外して襟元を少し開けた男性の姿がまえよりみられるようになった。『随筆ネクタイ(菱屋)』によると、ネクタイの起源は遠くローマ時代に遡るといふ。出陣する兵士たちが妻や恋人から贈られた布切れを首に巻いたことに始まったらしい。ネクタイには勝利の祈りが込められていた。

また、クロアチアの近衛連隊がクラブットというスカ

フのような揃いの布で首を飾ったのが始まりともいう。一七世紀、フランスはルイ十四世の時代、これがヨーロッパに広まった。どちらにせよネクタイの起源には戦争や軍隊が関係している。

ところでかつての企業戦士はいまや後期高齢者、ネクタイをする機会がめっきり減ってノーネクタイで外出するのが当たり前になってしまった。

(金井 義彰)